第６学年松組　　道徳授業案

平成２５年１０月１０日（木）　第２時限　６年松組教室

１　主　　題　　「命」　３－（１）生命の尊重

２　主題について

生命は、人間が存在するうえで最も大切なものであり、生きるものすべてにとって一回限りの絶対的なものである。生命をかけがえのないものとして、大切に考えられる児童は、自他の生命を尊び、温かな人間関係を築いていけると考える。しかし、核家族化が進み、人の死に直面する機会は少なく、また、命にかかわるような病気やけがとは無縁の子どもたちは、日頃、命について深く考える機会はあまりない。また、子どもたちは、ゲームで生死を簡単に操作したり、生命を軽んじる言葉を躊躇なく使ったりする姿も見られる。

「命」は、５歳のとき発症した神経芽細胞腫と５年半にも及ぶ闘病生活の末、１１歳という短い生涯を終えた少女、宮越由貴奈さんが亡くなる４ヶ月前に書いた詩である。「命はとても大切だ人間が生きるための電池みたいだ」という言葉から始まり、「だから　私は命が疲れたと言うまでせいいっぱい生きよう」と死を意識し、限りある命と向き合い、精一杯生きようという作者の思いが伝わってくる、感動的な作品である。本年度の夏休みの日誌にも掲載されており、記憶に残っている児童も少なくないと思われる。

この詩と出会うことによって、子どもたちが作者の思いを知り、自分の生き方を振り返えらせたい。また、かけがえのない生命を大切にして、日々一生懸命生きようとする気持ちが高まることを期待したい。

３　本時の授業（１／１時）

(1) 目　　標

・　生命はかけがえのないものであることに気付き、自他の生命を大切にして充実した生き方をしようとする気持ちを育てる。

(2) 本時の評価規準

・　生命はかけがえがなく、尊いものであることを知り、主人公が前向きに生きていくことに共感し、これから精一杯生きていこうという気持ちを高める。

(3) 準備・資料

・　教　師:「電池が切れるまで　子ども病院からのメッセージ」(すずらんの会編・角川書店)
中日新聞記事（２５年８月５・１７・１８・１９日)、学習シート、拡大資料、黒板貼付カード

(4) 過　　程

[- - -] 学習課題　[　　] 主な発問　＿＿＿言語活動に関する事項

段階 時間	学　習　活　動	・留意点　支支援　[　　] 評価 V道徳的価値との関連
気付く ３分	１　「命」という言葉から思いつくことを発表する。 ・　大切なもの。１つずつみんながもっている。 ・　どれだけお金を出しても、絶対に買えないもの。限りがあり、人は必ず死んでしまう。 [「命」について考えていきましょう。]	・　命のとらえ方を発表させ、本時の学習内容に対する方向付けをする。
とらえる ５分	２　資料「命」について知る。 （１）詩の範読を聞く。 （２）作者の人柄や置かれた状況を知る。 ・重い病気にかかっていたんだね。 ・自分もつらいのに、友達のことを思う優しい子だったんだね。	・　院内学級について説明し、病気と闘いながら頑張って勉強している子たちがいることに気付かせる。 ・　この詩がもつ意味をより深く理解させるため、友達が作った「ゆきなちゃん」という詩や母の言葉を紹介し、作者の人柄を知らせる。

深 め る ２０分	３　資料「命」について話し合う。 （１）　「電池」と「命」の似ているところと、違っているところは何かを考え、話し合う。 （２）　「命が疲れたと言うまでせいいっぱい生きる」という言葉を使った作者の気持ちを考え、話し合う。	・　命は電池と異なり、取り換えがきかないことやお金で買えないことに気付かせる。 ・　学習シートを使い、自分の考えをまとめさせる。
	由貴奈さんは、どんな思いで「私は命が疲れたと言うまで　せいいっぱい生きよう」と書いたのでしょう。	
	・いつ死ぬか分からない。今できることをしっかりとする。 ・一日、一日を大切に、病気が治ると信じて、つらい治療も耐えよう。 ・命が続く限り、亡くなった友達の分までがんばって生きよう。	支　イメージできない児童には、「命が疲れたというときまで」という言葉は、「死」を意味することに気付かせる。 短い言葉に込められた、生きることへの切実な思いに気付くことができたか。
見 つ め る １２分	４　自分を見つめる。	
	由貴奈さんの生き方から自分の生き方を振り返ってみましょう。自分にとって「精一杯生きる」とはどんなことですか。	
	・　自分の命に限りがあるとあまり考えたことはなかった。これから、夢が叶うように精一杯努力したい。 ・　由貴奈さんは思いやりがあるなと思った。私も友達に優しくしていきたいと思う。 ・　今日できることも、明日に先延ばしにしてしまっていることがある。今日できることは、今日やるようにして、時間を大切に使っていきたい。 ・　勉強や運動ができることは、幸せなことであることに気付いた。これからは失敗してもいいから、いろんなことに挑戦していきたいと思う。	・　学習シートを使い、自分の考えをまとめさせる。 v　作者の心情や生き方に寄り添い、共感させることで、尊い命についての考えを深めさせる。 作者の心情や生き方を考えると共に、自分にとっての精一杯の生き方を考えることができたか。
あたためる ５分	５　新聞記事（中日新聞「１６歳　がん余命告知」２５年８月５日　「遺すために　１６歳・余命告知からの８７日間」２５年８月１７日～１９日）についての話を聞く。	・　がんを患い、余命宣告を受けながら、残された人生は治療を選択し、最期まで精一杯生きた少年についての新聞記事を紹介する。 ・　「死」への恐怖と闘いながら、９通の感謝の手紙を書いた少年の気持ちを想像させる。

４　反　　省

５　高　　評